

学校評価（R6前期）の考察

肯定率80%を超える評価項目（B評価以上）は、教職員が18項目中17項目（うち17項目はA評価）、児童が15項目中15項目（うち14項目はA評価）、保護者が16項目中12項目（うち10項目はA評価）と全体的に良好である。しかし、児童・教職員の評価に比べ、保護者の肯定率が低いことや、前回に引き続き極端に評価が低い項目があることなど、早急な対応や取組の見直しが必要である。

【項目ごとの分析と対応策】

○ 「楽しく分かる授業・学力向上・家庭学習」 評価項目①②③

楽しく分かる授業については、保護者・児童・職員の肯定率が全て100%と極めて高い。しかし、評価項目③の学力向上（学力の定着）に関しては、児童・職員の肯定率が100%に対し、保護者肯定率は79%（C評価）と低くなっており、保護者は児童の学力の状況に満足していないことが伺える。評価項目④の家庭学習の取組についても、同様の結果となっていることから、今後は家庭学習の質・量の見直しを図るとともに、家庭と連携した確実な見届けと評価に一層力を入れていく必要がある。

○ 「読書習慣」 評価項目④

「読書デー」の導入など、読書習慣定着に向けた新たな取組の成果として、児童肯定率は、前回比+13%（B評価）と大きく改善している。しかし、保護者の肯定率は45%（D評価）と極めて低く、読書デー以外の家庭読書は十分浸透していないのではないかと考えられる。家庭読書の習慣化には、読書をするための十分な時間確保が必要であることから、今後はゲームや動画視聴に関する指導を一層充実させ、家庭と連携しながら読書の時間と質の向上に努めたい。

○ 「あいさつ」 評価項目⑥

児童肯定率97%（A評価）、職員肯定率100%（A評価）と極めて良い評価となっているが、保護者肯定率は前回比-10%（85%、B評価）と大きく下がっている。このことから、学校ではよく挨拶ができていますが、家庭や地域での挨拶がやや低調になっているのではないかと推察される。道徳の授業を中心に心情面の醸成に努めるとともに、生活全般を通じて挨拶の意義やよさについて指導を続けたい。

○ 「生活習慣」 評価項目⑩

児童肯定率91%（A評価）に対し、保護者肯定率は前回比-6%（79%、C評価）と下がっている。毎月実施している「三崎っ子リズムチェック」（児童対象）における「早寝・早起き・朝ごはん」の調査結果は、中学年を中心に「早寝」の得点が低い傾向が見られる。また、早寝ができていない児童は、メディアの利用時間が長いという相関関係も見られた。このことから、児童の生活習慣（生活リズム）は、十分身に付いているとは言えない面があり、今後も家庭・学校が連携して指導を続けていく必要がある。特に、ゲームや動画視聴に関する指導には、家庭の協力が不可欠であるため、適切な情報発信を行いながら連携強化を図っていきたい。